



2018. 12. 1

12月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

ちとせ幼稚園の正門前の道向かいには、お向かいの高層住宅のゴミ集積所があります。そのゴミを収集に来られる神戸市環境局の方が先日、幼稚園に来られました。いつも収集車を運転されている方々でした。

正門前の道は袋小路なので、車体が大きなゴミ収集車はバス道からバックで進入してきます。

進入してくる時、登園・降園の時間帯はもちろん、それ以外の時間帯でも、門の前や幼稚園向かいの新しくなった公園の入口辺りなど、道路上に「保護者と思しき方」が居られると、収集車を運転している方は『保護者らしき人が居る→幼稚園児が居る可能性がある』と考え、「とても気を遣います」とのことでした。安全を心がけて下さっているのだと、お礼を申し上げましたら、続きがありました。

保護者と思しき方が、顔を（収集車の方へ）向けたり、道から避けてくれると安心できるのですが、

「（収集車の方を）全く見ない、おしゃべりをしている、という状況は、子どもが飛び出てくるのではないかと、気が気ではないのです。」

とのことでした。収集車は車体が大きいので死角も大きく、本当に気を遣うのです、と。

保護者の皆さんにしてみれば「子どもが一緒かどうかなんて見れば分かるでしょ」ですが、幼稚園の動きを知らないなら「幼稚園の周囲だ→保護者かな？→子どもが一緒かも？」は、これも当然の連想でしょう。

「前進で進入、幼稚園の駐車場で方向転換」も提案したのですが、環境局の方は、

「収集車に気がついているという「サイン」をもらえると、とても助かるのです」とのことでした。

「サイン」は、例えば、収集車へ顔を向ける、視線を送る、端へ寄るなど、「収集車の進入に気づいていることを運転者に知らせる行動」と言えるのでしょうか。そして、もし子どもが一緒ならば、飛び出さないように手を繋ぐ、腕を掴む、などが良いのではないのでしょうか。

環境局の方には、幼稚園を気にかけてくださっていることに重ねて感謝申し上げ、お申し出の件、保護者の皆さんにお伝えします、と約束しました。

ちとせ幼稚園は、この高倉台という地域の一部です。子どもたちを愛し育てているのは私たち教職員だけではありません。ちとせ幼稚園を仲間として認め、護り、一緒に歩んでくださる地域の方々の温かい眼差しが、子どもたちを育む大きな力です。色々な交わりの中で子どもたちは育まれていきます。身近なところから愛されていることを感じ、そうした全てを包む神様の愛を感じ、ともに生きることを祝う、そんなクリスマスになりますように。

年主題 『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

<年主題聖句> 「愛する者たち、
神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、
わたしたちも互いに愛し合うべきです。」
(ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節)

12月主題 『喜び合う』

<聖句> 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」
(マタイによる福音書1章23節)